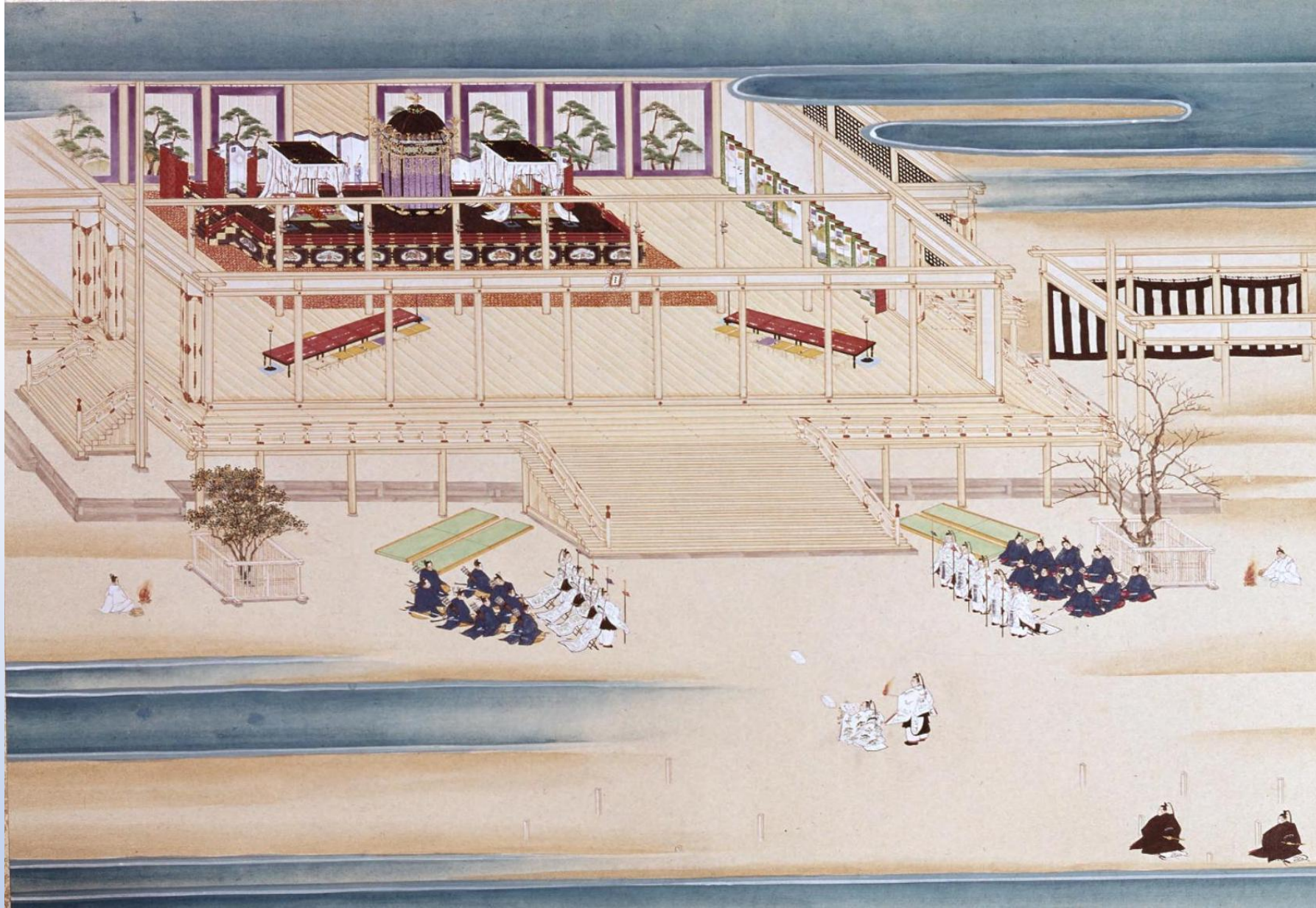




即位式と大嘗祭

The coronation and DAIJOSAI



令和元年十月二十二日。

この日、即位式が始まります。

即位とは、私が天皇を継ぎました ということを国内外の人々に対して宣言し、多くの人の前に出て発表することです。

On Oct. 22, 2019, the 126th Japanese Emperor's coronation was held with guests from 180 countries around the world.



Japanese people mainly eat rice. In some times, rice was as valuable as money. Now we pay taxes with money, but until 1872 we mainly paid for rice. We were paying tax. In Japan, rice has been regarded as valuable and important.


皆さんは毎日お米を頂きますか？ 食べている人に質問です。
なぜ食べているのかを考えたことがありますか？
皆さんが頂くお米には、たくさんの栄養が入っています。
毎日遊んだり、働いたりするためのパワーになるのです。
昔からずっと日本ではお米を食べてます
また、時代によっては、お米がお金と同じような価値だった時代もあります。
今の私達はお金で税を払ってますが、明治時代になるまでは主にお米で
税を払っていました。

それくらい日本では、お米に価値があり、重要なものとして捉えてきました。



There are gods Amaterasu and Niniginomikoto in Japanese mythology. Amaterasu is the grandmother of Niniginomikoto. In the heavens, there is a place where a god named “Takagahara” lives, and people who live in the world of rice and rice from Amaterasu should live! * And like the world of heaven, rice should be rich and prosperous! * And I will tell my grandson, Niniginomikoto. The ordered Niniginomikoto has rice ears (rice seeds) and receives three kinds of sacred treasures and descends to the world on earth.

では、なぜ重要でいつからお米があったのかという話をします。
日本の神話の中で、アマテラスとニニギノミコトという神様が出てきます。
アマテラスがニニギノミコトのおばあちゃんです。
簡潔に説明すると、アマテラスが高天原という神々が住む天上の世界にある 稲、お米を地上の世界に住む人々も食べて生きるべき！
そして天上の世界のように稲が豊かに実り、栄える国にするべき！
と孫のニニギノミコトに命令します。
命令されたニニギノミコトは、稲穂（稲の種）を持ち、また三種の神器をもらい、地上の世界へと降りていきます。
地上へ降りる一連の神話のエピソードを「天孫降臨」といいます。




お米を作るように命令されたことを
難しい言葉で「斎庭の稲穂の神勅」
と言います。

斎庭とは、天上の世界にある神聖な
田んぼを指し、そこで育った稲の種
を地上の世界で広めるように命じら
れました。

神様の命令のことを神勅と言います。
また、アマテラスからは地上に向か
う際、三種の神器が授けられました。
三種の神器を授けるという行為は、
現在も天皇陛下の代替わりの際に受
け継がれています。

三種の神器の話はまた後でします。



日本をほめて言う呼び方として、「豊葦原瑞穂国」という言い方があります。

日本が豊かな葦原のように、瑞々しい稲穂に恵まれた国という意味で使われますが、稲が実り、多くの日本人がお米を食べて頂くことがいかに大切で、神聖な食物だったかが神話にも残っていますし、この神話を私達の祖先は稲作の起源として語り継いできました。

ここまでの稲米がとても重要というお話でした。



では、少し令和の時代に戻りたいと思います。

令和元年五月一日に、譲位という形で、新たに令和の時代になりました。

そして、継承したことをまずは、アマテラスをはじめとする天皇陛下のご先祖様に対して報告しました。

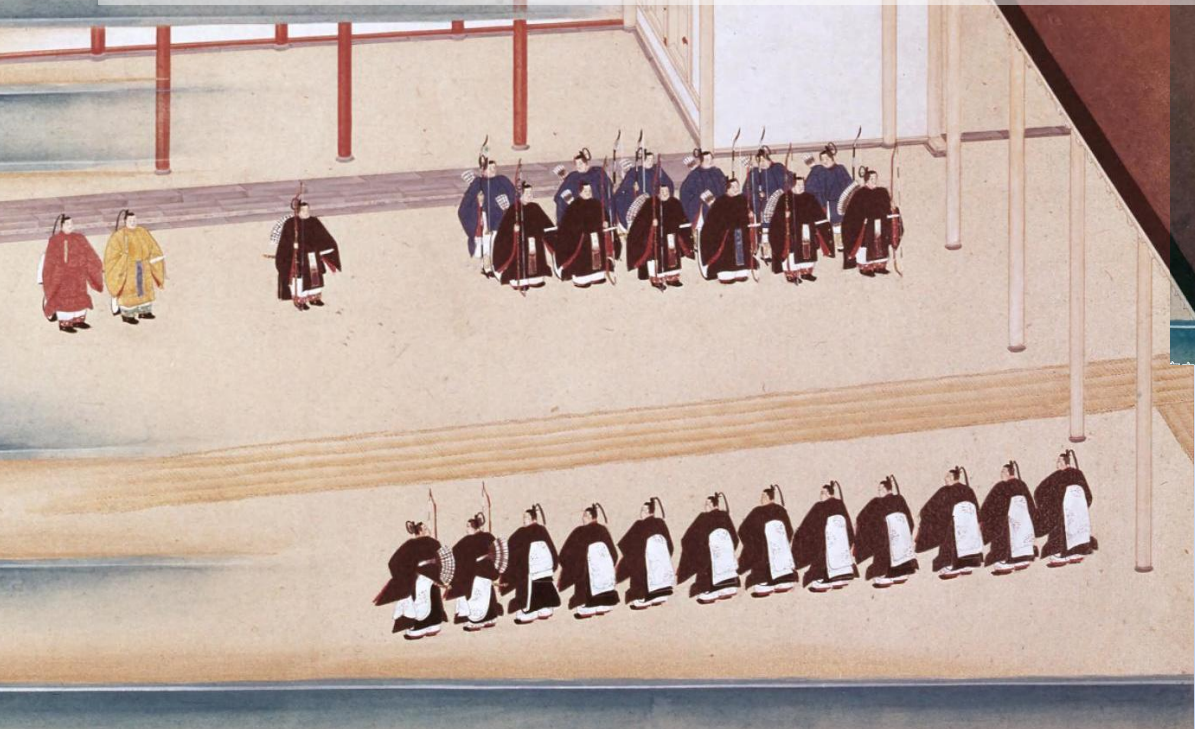
皇居の中に、アマテラス含めご先祖様をお祭りしている建物があります。

GWにこのような儀式が行われていました。

この日には踐祚（せんそ）という位を受け継ぐことを指します。最初に説明した即位というのは、その後に位に付いたことを発表することをいいます。

踐祚の式では、簡単に説明しますと天皇の位についたしるしとして、代々継承されてきた「三種の神器」や、皇室に由緒ある品々が継承されました。

三種の神器は、先ほどの天孫降臨のエピソードにも出てきましたが、この時に受け継いだ儀式が今も続いています。



高御座

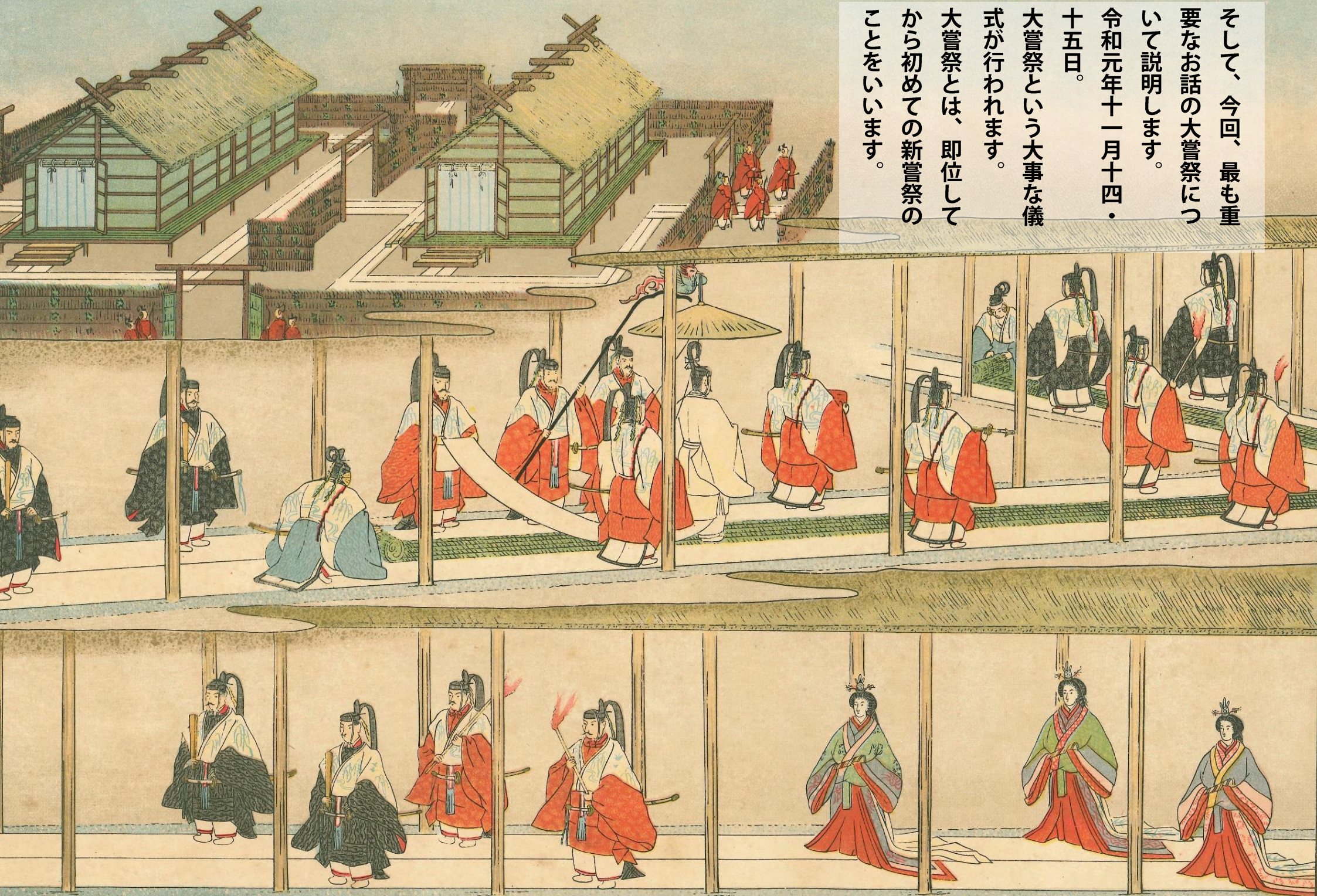


即位の話に戻りますと、十月二十二日、高御座という玉座に着いて、日本を含めた二百か国に及ぶ多くの海外の代表者たちへ無事に天皇陛下の位についたことを報告します。

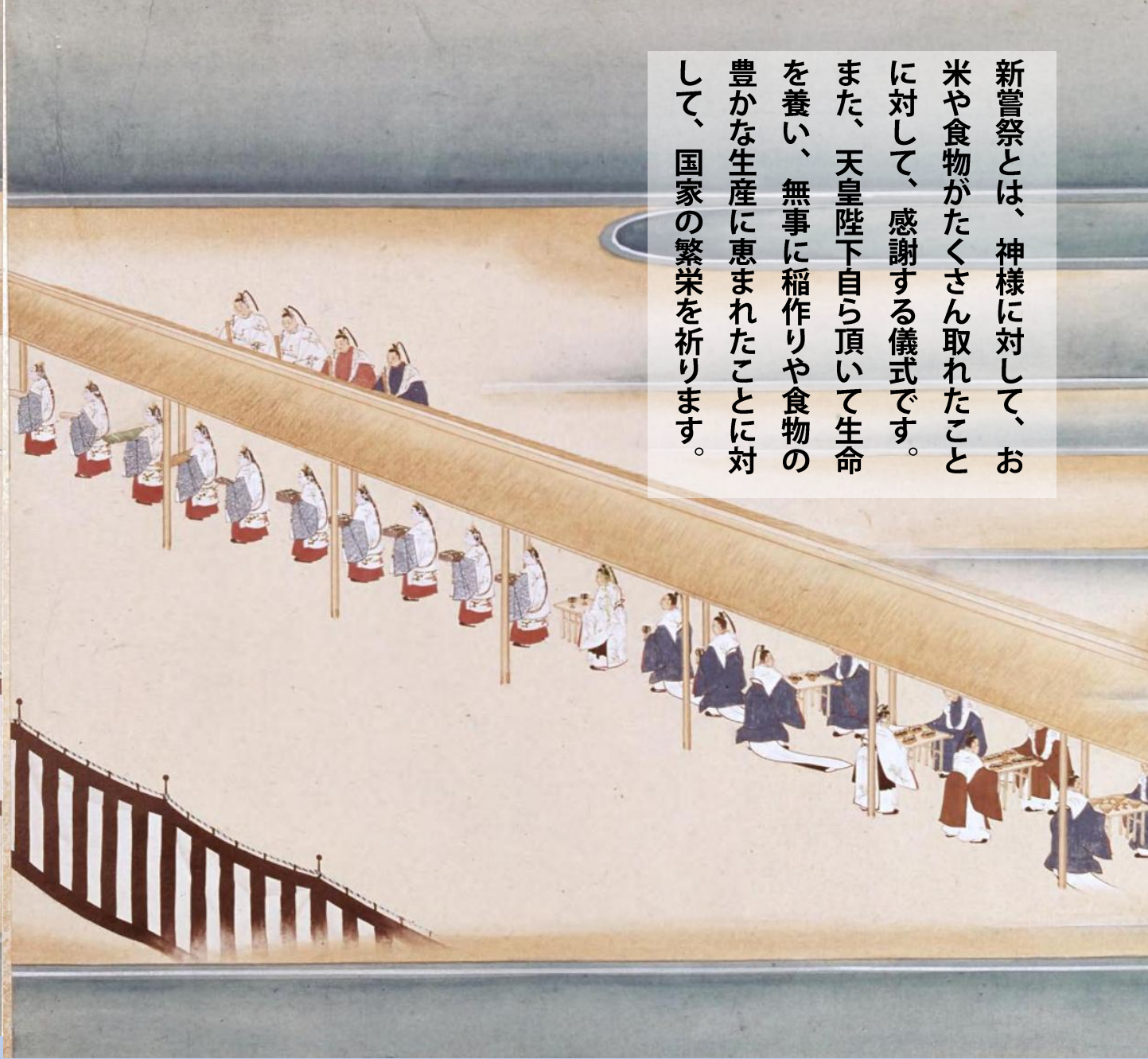
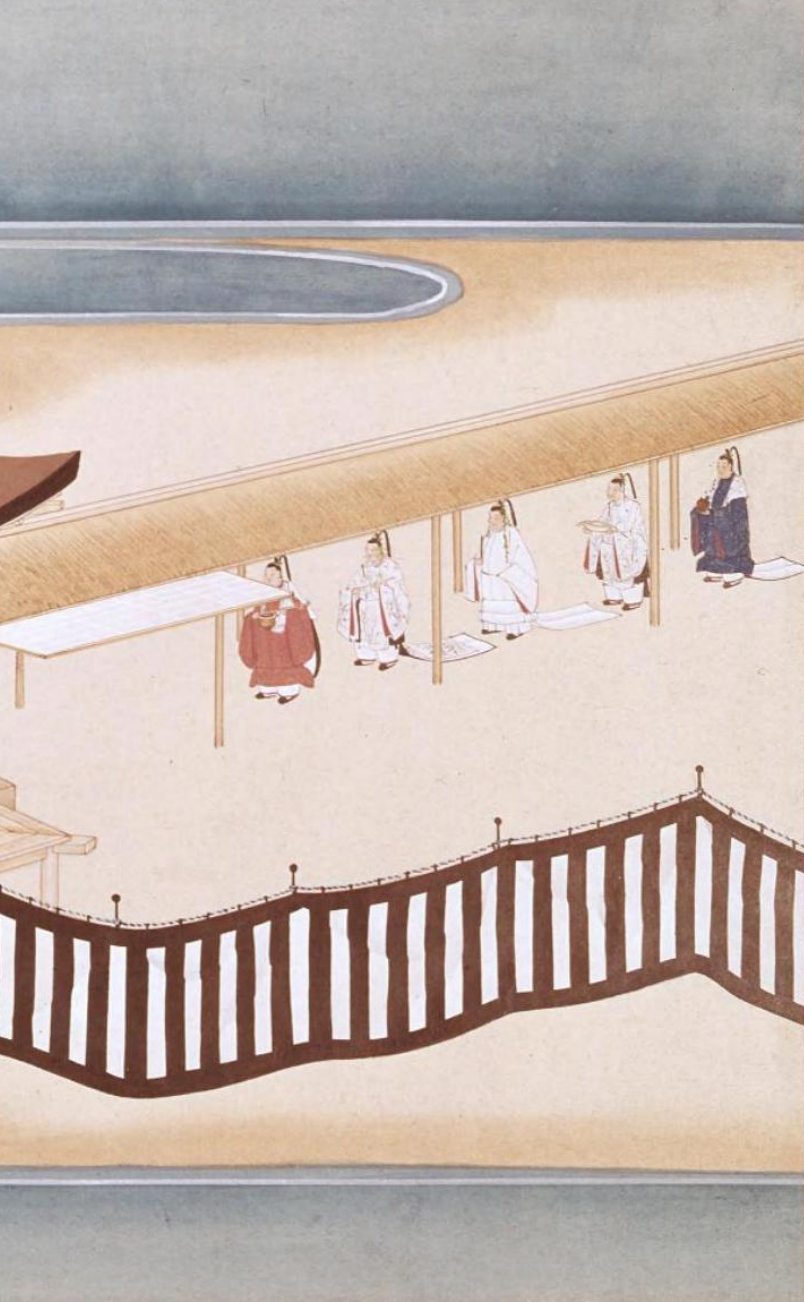
パレードを行ったり、来ていただいた方へおもてなしのパーティが行われました。

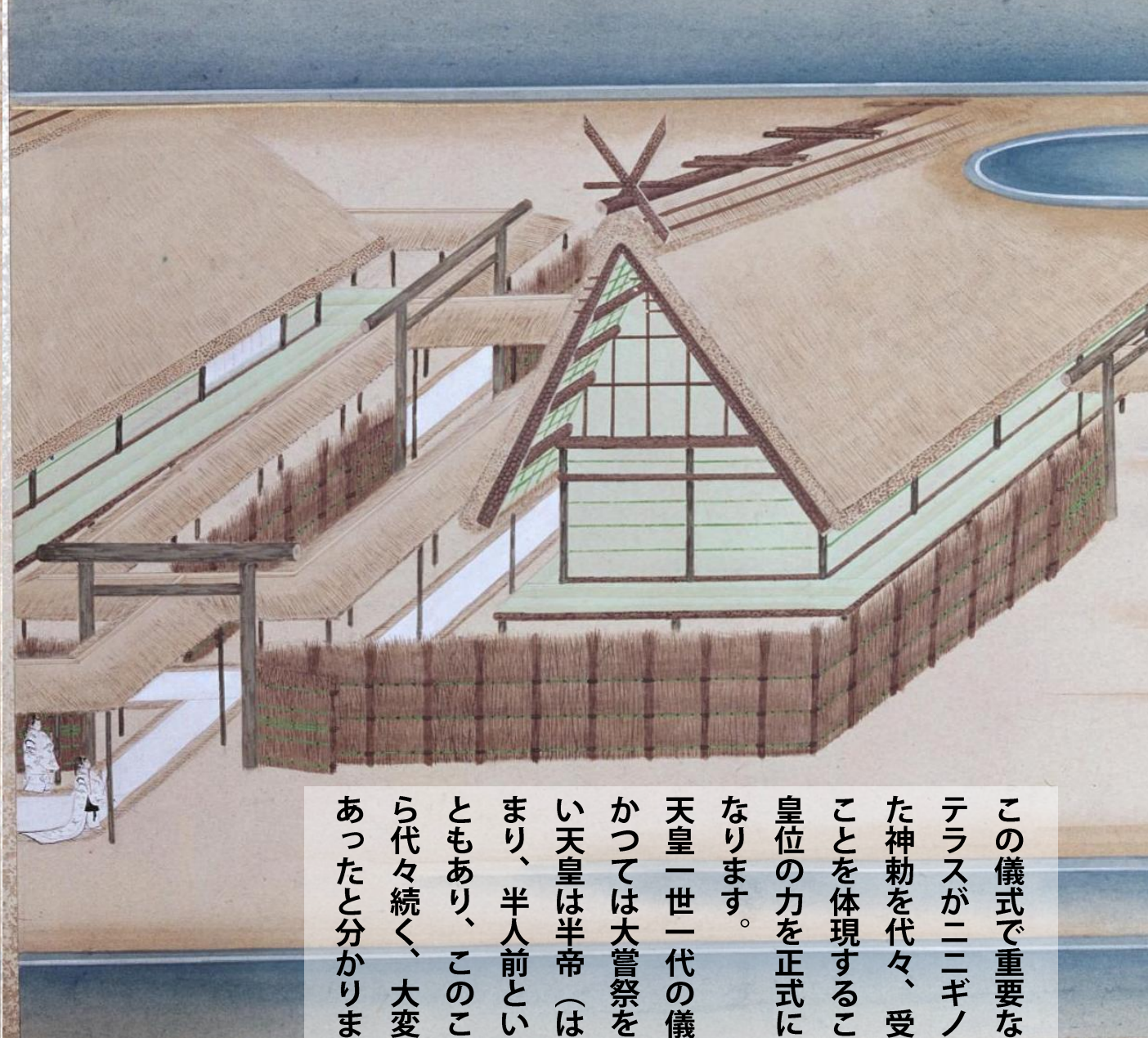
これが即位の礼です。

そして、今回、最も重要なお話の大嘗祭について説明します。
令和元年十一月十四・十五日。
大嘗祭という大事な儀式が行われます。
大嘗祭とは、即位してから初めての新嘗祭のことをいいます。



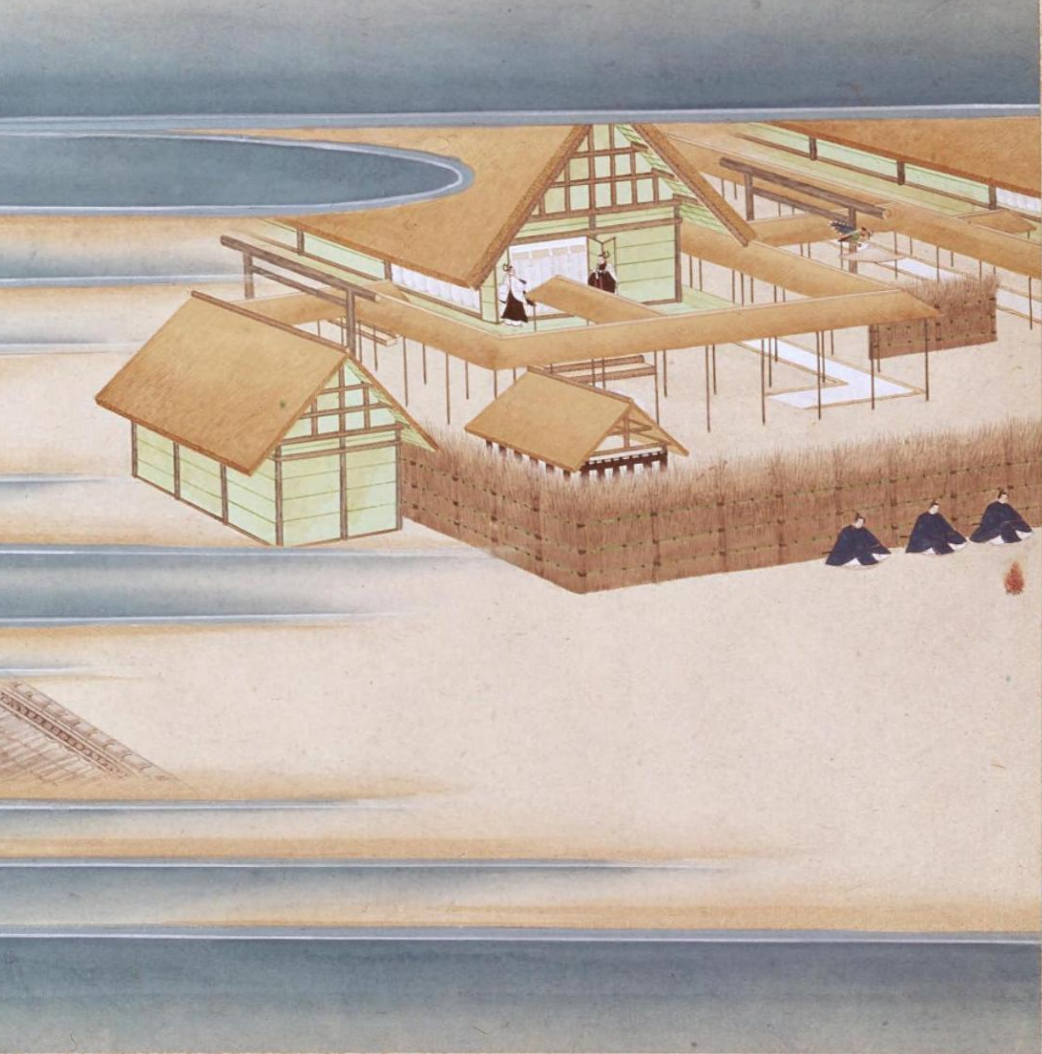
新嘗祭とは、神様に対して、お米や食物がたくさん取れたことに対して、感謝する儀式です。また、天皇陛下自ら頂いて生命を養い、無事に稲作りや食物の豊かな生産に恵まれたことに対して、国家の繁栄を祈ります。





この儀式で重要なことは、アマテラスがニギノミコトに命じた神勅を代々、受け継いでいることを体現することになるため、皇位の力を正式に授かることとなります。

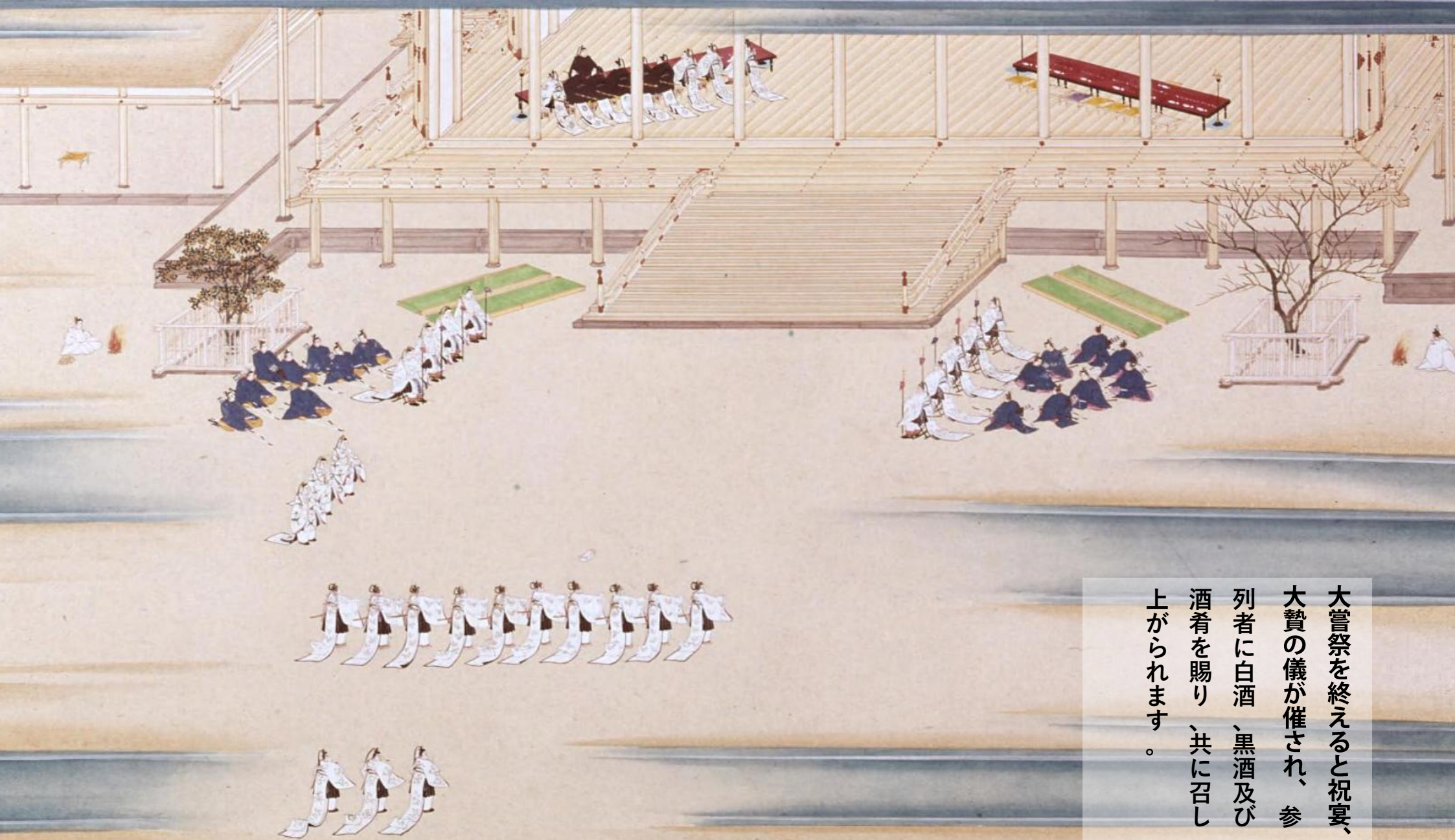
天皇一世一代の儀式であるため、かつては大嘗祭を済ませていない天皇は半帝（はんてい）、つまり、半人前といわれていたこともあり、このことから、昔から代々続く、大変重要な儀式であったと分かります。



神話の話にもあったとおり、稲は大切なもので稲がたくさん実ることがこの国が豊かになることを表します。

一言でいうとこの儀式のために、大嘗宮という大嘗祭専用の大きな家を建てて、お祭りが終わったら、綺麗に取り壊してしまいます。

たった一回の儀式に大がかかりな準備が必要となることから、どれほど重要な儀式であるかわかると思います。

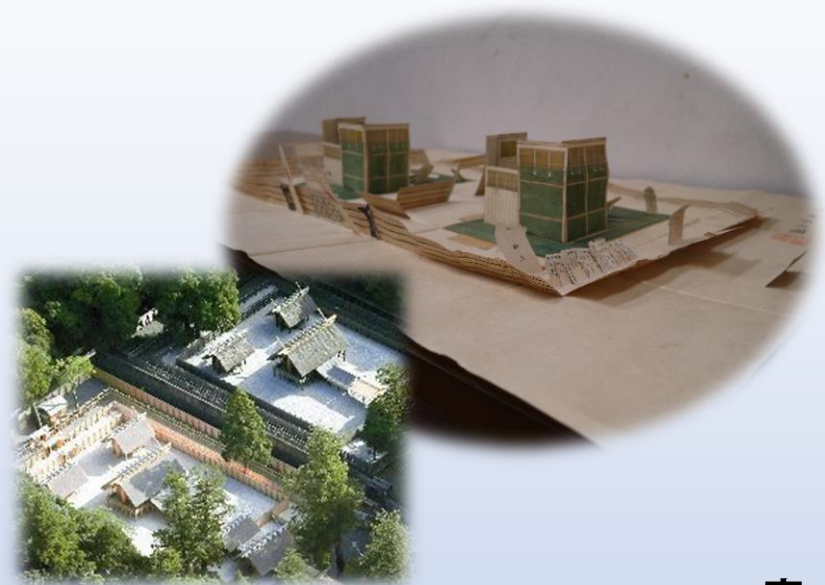
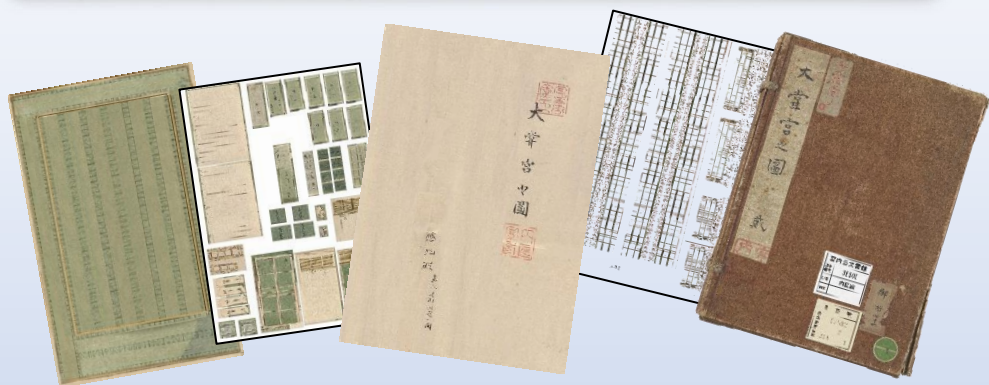


大嘗祭を終えると祝宴、
大贄の儀が催され、参
列者に白酒、黒酒及び
酒肴を賜り、共に召し
上がられます。

嘉永度 大嘗宮之図起こし絵図 つくり方



嘉永度 大嘗宮之図起こし絵図
(宮内庁書陵部蔵)



平成25年（2013） 伊勢神宮遷宮

「大嘗宮起こし絵図の
キット」は大人から子ど
もたちまで楽しみながら
大嘗祭について学ぶこと
ができます。
また令和十五年の伊勢神
宮遷宮を見据え、大人か
ら子どもたちまで、興味
をもつきっかけになれば
と思い企画しました。

真弓常忠

神社本庁教学顧問
皇學館大学名誉教授
住吉大社名誉宮司

監修